

ケータイ連携QRデータ変換ファイルについて

※スマートフォン用のものではありません。

はじめに:

このフォルダにあるファイルメーカーProのデータベースファイル(以下DBファイル)は、携帯電話への自動登録(入力)を実現させるためのQRコード用データを作成するものです。

QRコードそのものの作成は当ファイルでフォーマット出力したデータを元にバーコードROBO4やそれに付属の組版ROBO4を併用して行います。

以下において、説明のための機能用語には一部を除いてdocomoのQRコード読み取り機能のものを使用しておりますが、他のキャリアにおいても類似の機能に対応しております。

各キャリアごとの対応関係は以下の通りです。ただしここでの用語は各社HP*のものを使用しております。

【ご注意】携帯電話での読み取り用QRコードであっても、一般のテキストなどの自由形式データをQRコード化する場合には、このデータフォーマットに従う必要はありません。

docomo	au	SoftBank
電話帳登録	アドレス帳一括入力	メモリダイヤラー 一括登録
メール連携	メール送信データ自動挿入	メールリンク
ブックマーク登録	URL to	Webリンク
	EZナビウォーク連携	
iアプリ連携		

*各キャリアの情報に関してはそれぞれ次のURLのものを参照してください。(2017年5月現在)

docomo: <http://www.nttdocomo.co.jp/service/developer/index.html>

au: http://www.au.kddi.com/ezfactory/tec/two_dimensions/index.html

ご注意:

DBファイルから出力するデータフォーマットは各キャリアごとの専用HPの仕様をもとにしております。(2006年12月現在)

もし仕様に変更が生じたり不都合が生じた場合はできるだけ速やかに対応したいと思いますが、基本的にこのファイルから出力されるデータで作成したQRコードを用いての自動登録(入力)を保証するものではありませんのであらかじめご了承ください。

これらのDBファイルにはアクセス制限は掛かっておりません。ご利用環境に合わせて適当に改変しても構いませんが、原本および改変したもののライセンス条項(バーコードROBO4マニュアル参照)を超えての配布は禁じます。

また、これらのDBファイルのスクリプト内容に関することや改変の方法および改変後のご質問には応じかねますのでご了承ください。

各DBファイルについて:

全部で以下の見出しと同じ名称の4種類のDBファイルがあります。
ファイルメーカー Pro5または6をお使いの方は当ファイルと同じ階層にあるDBファイルをそのまま開くことができます。ファイルメーカー Pro7をお使いの方は最初のオープン時に「ファイル・開く」メニューからこれらのファイルを選び、オープン・ダイアログの指示に従って変換をおこなってください。一方、ファイルメーカー Pro4をお使いの方は「FileMaker Pro4用」フォルダの同名ファイルをご利用ください。

【重要】DBファイルはハードディスク上へコピーしたものをお使いください。CD-ROM上からは使用できません。

「iアプリ連携」除く各DBファイルには「docomo形式」「au/SoftBank形式」「3種併記形式※」の3つのQRデータの内容となるフィールドがあります。このフィールドは変更できません。色付きのフィールドにデータを入力できます。

「iアプリ連携」ファイルには「docomo形式」のQRデータの内容となるフィールドがあります。このフィールドは変更できません。色付きのフィールドにデータを入力できます。
なお、各DBファイルごとにキャリアによる差異がある場合があります。

※「3種併記形式」フィールドには、先にau/SoftBank形式、後にdocomo形式を併記した値を出力します。

★ Windows版ファイルメーカーProでDBファイルを開く際に、システム書式を使用するかどうかを聞いてくる場合がありますが、このダイアログを開かないようにするには同環境において「名前を付けて保存」メニューで「データなしのコピー」オプションを指定して保存しなおしてください。また、ファイルメーカーPro7では「ファイルオプション」メニューでこれを制御することもできます。なお、当DBファイルのいずれの中にもシステム書式に関わるフィールドはありません。システム書式の詳細についてはファイルメーカーProのマニュアルまたはオンライン・ヘルプを参照してください。

○ 電話帳登録・EZナビ連携

docomoの場合だけ、姓(セイ)と名(メイ)を分けて登録できます。他のキャリアでは各個別に入力しても姓名(セイメイ)欄にまとめて入力してもフォーマット結果は同じです。

「TEL-AV(docomoのみ)」はdocomo(機種による)のみ有効です。auの場合だけ「メモ」欄と「住所」欄をそれぞれ個別に指定、docomo形式ではどちらを出力するかをラジオボタンで選択できます。

どのキャリアに対しても、セイ[セイメイ]、メイはそれぞれ姓[姓名]、名の読み仮名を入れてください。ひらがな、カタカナ/カカナのどれでも構いませんが、いずれも半角のカカナでフォーマットされます。項目名下の括弧内にdocomo2.0/3.0などとあるものは機種および対応バージョンによります。

住所からauのEZナビウォークを呼び出す場合には、住所欄は都道府県名から始まり、地番表記に漢数字を含まないものでなければなりません。同欄のスペースはフォーマット時に自動的に詰められますので、ビル階数や部屋番号を続ける場合にはハイフンなど数字以外の文字で区切ってください。(例: 5-19-11-5F、3-17-6マンション303など)
また、auではメモ欄でGPS情報(URL)を直接渡すこともできます。

○ メール連携

どのキャリアもすべての項目が有効です。「宛先」の英数記号は半角文字でフォーマットされます。

○ ブックマーク・URL・EZナビ連携

ブックマーク登録機能はdocomo機でのみ有効です。au/SoftBank形式に対しては「タイトル」欄は便宜上設けてあります。「タイトルを併記する」チェックボックスで出力をON/OFFできます。au機で「タイトル」欄を「電話帳登録・EZナビ連携」シートの住所欄のように使用することもできます。その場合はスペースを含めないでください。「URL」の英数記号は半角文字でフォーマットされます。

参考

auでは「URL」でEZナビウォークのGPS情報を渡すこともできます。
GPS情報の取得は住所で目的地をアクセス後、メール送受信でおこなうこともできます。
詳細については対応キャリアのマニュアル等をご覧ください。

○ iアプリ連携

このDBファイルはdocomo専用です。「パラメータ名_n」と「パラメータ値_n」の組はPARAMプロパティの<name>と<value>の組で、16組まで指定できます。

使用方法:

【重要】DBファイルはハードディスク上へコピーしたものをお使いください。CD-ROM上からは使用できません。

フォーマット出力を制御するラジオボタンやチェックボックスはグローバルタイプですので、個々のレコードに対して個別に指定することはできません。

- 1) 上記DBファイルのうち目的のファイルを開き、所定のフィールド(色付き部)に入力するか、前もって用意したデータのレコードを取り込む。(前項「各DBファイルについて」を参照)
(注)docomo形式においては、必要に応じて「¥」「:」「,」「.」は自動的にエスケープ表記でフォーマットされますのでこれらの文字を入力する場合でもそのまま記述してください。
また、バーコードROBO4ではケータイ絵文字はShift-JIS2バイトコード表記で符号化可能です。表記法等についてはバーコードROBO4のマニュアルをご覧ください。
なお、各フィールドごとの使用可能な文字および文字数の詳細については各キャリアごとのHP(URL上記)でご確認ください。

図は「電話帳登録・EZナビ連携」DBファイルのもの。(以下同)

電話帳登録・EZナビ連携

ブラウズ
レイアウト:
レイアウト▶

レコード:
1
合計:
1
未ソート

姓[姓名]	山田	名	太郎
セイ[セイメイ]	ヤマダ	メイ	タロウ
TEL1	98-7654-3210		
TEL2			
TEL3			
TEL_AV (DoCoMo2.0)			
Mail1	taro@yamada.me.jq		
Mail2			
Mail3			
メモ			
誕生日 (DoCoMo3.0):	YYYYMMDD形式: 1994年8月21日生→19940821		
住所	東京都渋谷区広尾5		
ホームページ (DoCoMo3.0):			
ニックネーム (DoCoMo3.0):			

DoCoMo形式 姓名, セイメイ, TEL1, TEL2, TEL3, TEL-AV, Mail1, Mail2, Mail3, メモ, 誕生日, ,

```
MECARD:N:山田,太郎;SOUND:ヤマダ,タロウ;TEL:98-7654-3210;
EMAIL:taro@yamada.me.jq;ADR:東京都渋谷区広尾5;;
```

au/SoftBank形式 メモ, 姓名, セイメイ, Mail1, Mail2, Mail3, TEL1, TEL2, TEL3, 住所 (au)

```
MEMORY:<CR><LF>NAME1:山田太郎<CR><LF>NAME2:ヤマダ
タロウ<CR><LF>MAIL1:taro@yamada.me.jq<CR><LF>TEL1:98
-7654-3210<CR><LF>ADD:東京都渋谷区広尾5<CR><LF>
```

- 2) QRコード用のフォーマットデータがキャリアごとのフォーマットフィールド「***形式」に作成(自動計算)されたことを確認する。
このとき、「docomo形式」においては、「メモ」欄と「住所」欄のどちらをQRデータに取り込むかを指定できます。各フィールド下部のラジオボタンで選択します。
「3種併記形式」フィールドには、先にau/SoftBank形式、後にdocomo形式を併記した値を出力します。

【重要】「3種併記形式」データで作成したQRコードを各キャリアで読み込んだ場合、先にau/SoftBank形式がきて、改行と“-docomo-”の文字列の後にdocomo形式が配置されます。したがって、docomo機で読み込んだデータは、“-docomo-”より下が有効ですのでアンカーを移動させてください。一方au/SoftBank機で読み込んだデータは“-docomo-”以下を無視してください。

次に、個別にシンボル作成する場合は3)へ、また組版ROBO4を用いて一括作成する場合は4)へ。

DoCoMo形式 姓名, セイメイ, TEL1, TEL2, TEL3, TEL-AV, Mail1, Mail2, Mail3, メモ, 誕生日,	
MECARD:N:山田,太郎;SOUND:タラタラ;TEL:98-7654-3210;	▲
EMAIL:taro@yamada.me.jq;ADR:東京都渋谷区広尾5;;	
	▼

- 3) 入力レコード対応するフォーマットフィールド「***形式」の一つの内容をコピーしバーコードROBO4のQRコード用パレットのデータ入力欄にペーストする。

★ MacOS X環境のIllustrator10でお使いの場合のご注意

MacOS Xのバージョンおよびコピー元のアプリケーションによっては上記ペーストが、開いている書類上で実行される場合があります。これはバーコードROBO4特有の不具合ではありません。この現象を回避するには、いったん書類上にペーストされたデータをcmd+Xでカットしてから目的のデータ入力欄へペーストし直してください。

6)へ。

- 4) ファイルメーカーの「ファイル・レコードの書き出し」メニューを選び「タブ区切りテキスト」または「コンマ区切りテキスト(CSV)」形式で書き出す。
このときファイル名の拡張子は.txtまたは.tabまたは.csv(ファイル名:***.txtまたは***.tabまたは***.csv)とする。
- 5) この保存ファイルを組版ROBO4のパレットにある「取り込みファイルの指定」ボタンを押して読み込む。(タブ区切りかコンマ区切りにご注意ください。)
- 6) これより先の操作はバーコード／組版ROBO4上になりますので、そのマニュアルに従ってください。

2004,2017 有限会社ナカエソフトウェア開発 All rights reserved.

QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

FileMakerおよびファイルメーカーは、FileMaker,inc.の登録商標です。

掲載されている会社名、製品名、サービス名等は各社の商標または登録商標です。

バーコードROBO4、組版ROBO4は有限会社ナカエソフトウェア開発の商標です。